
ハッピーバースデー

大川 賢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピーバースデー

【Nコード】

N3341C

【作者名】

大川 賢

【あらすじ】

町外れの小さな家の中ではいったい何がおきているのでしょうか？

(前書き)

17の時に書いた小説です。感想頂けると嬉しいです。

毎日人をそこからここへと移動させるだけ。何人乗せたって日給は変わらない。中岡がタクシー運転手を始

めてはや28年…。あまり達成感のない仕事かもしれない。

今日も中岡は市駅前にとろせましと並んだタクシーのうちの一台に乗っていた。

もう今週のジャンプも週刊誌も読みあきた。

「ガガガ：あつこちら本部市駅裏：ガガガ13番：どうぞ」始まったばかりの巨人ー阪神戦を消すと

「こちら13番了解」と答えサイドブレーキを降ろした。タ

ーミナルの裏側の階段先。20代のOL風の女性が手をあげる。

「どちらまで？」ルームミラー越しに女性の顔を見ながら聞く。「上野ま

でお願いします。」

彼女のどこかうきうきした様子に車内の空気は暖かくなった。

彼女のひざにある小さなオレンジの小箱。「これ街のケーキ屋超うまいよ」

先週の土曜娘が母に手渡していたのを思い出す。

「そこ
のケーキおいしいらしいね」
「知ってるんで

すか？高いですけどね〇（へーへ）〇今日ママの誕生日だから。今日で48才なんですよ。」

それからつくまでの15分彼女は目を輝かせて母について語ってくれた。アッ

プルパイが上手な事、何度言ってもメガネをすぐ無くす事：いろいろ聞いた。どれだけママが大

好きか伝わった。きつと優しいお母さんなんだろうなあ：

みかん畑の奥にある小さな家に手を振りながらかけていく彼女を見ながらそう思った。

「ガガガ：こちら本部：市駅ターミナル

13番どうぞ：ガガガ」

「：こ

ちら13番：ガガ：今向かいます」

先程

と同じ場所に作業着姿の青年が立っていた。「毎日仕事大変

だろ？」「そうっすね、土木なんで。毎日ぐっすりっすね」「

さっきもキミと同じるケーキ屋さんの箱持ってるお客さん乗せたよ」

信号で止まった車の中

で彼のひざにあるオレンジの箱を見ながら中岡は言った。

「マジすか？なんかうちのおかんが食べたいて言うてたんで誕生日やし買おて帰ろかな思って」

照れくさそうに言いながら車はどんどんみかん畑を突き進む。

彼は恥ずかしそうに軽く手をあげる
とみかん畑の奥にある灯りのともった家と歩いて行った。

もう9時を回っている。野球も5―2で巨人

が勝ったようだ。スポーツニュースを聞きな

がらさっきの姉弟の事を考えるとなんかおかしかった。

「あゝしんど…」

「ガガガ：こちら本部

：ガガ：市駅ターミナル：13番どうぞ」

あくびするヒマすらない「ガガガ：こちら13番了解」

またターミナルの

裏か：階段横にはスーツ姿の

中年女性の姿。

疲れた様子で窓の外

を眺めていた。「いつも仕事こんなに遅いんです

か？」声をかけてみる。

「はい、失敗はするしヘトヘトです」笑いながら女性は答えた。

中岡は乗せる前から彼女が左手にオレンジの小箱を持っているのに気づいていた。」

今日はその箱持った人よく乗せましたよ」

「あっこれ？これ街のケーキ屋さんなの。」

今日は私の誕生日だから。誰も祝ってくれないし自分で祝ってあげよっかななんて思っただけ。私寂しいでしょ（笑）」

なんか嬉しくて微笑もうとする顔を抑えながら中岡は車を走らせた。

真っ直ぐです」

「はい」

もう覚えた道をゆっくり走る。

賑やかなカラオケを曲がると車は

みかん畑に突入する。

「次の曲がり角を左なんでここでいいです」

「あと三時間の誕生日まんきつ

「あはは」 恥

ずかしいそうに、そしてちょっと悲しげな笑顔を浮かべ降りて行った彼女に 「ハッピーバースデー」

中岡は叫んだ。 ペこりと頭を下げると小道を歩いて家と歩いて行った。 心が

ほっこり温まった。帰りの渋滞もなぜか腹がたたなかった。すぐくすぐく幸せな気分だ。これだから嫌だといいつつもこの仕事は辞められない。

その後の事は誰にもわからない。 ただ中岡にわかるのは

あの母が本当に愛されている事、 あの小さな家の中で彼女がたくさんの心からのハッピーバースデーを聞いたであろう事だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3341c/>

ハッピーバースデー

2010年10月10日06時48分発行